

気仙がんの在宅療養研修会 2016



がん患者さんとご家族を支える情報と地域づくり

地域におけるがん患者の緩和ケアと療養支援情報普及と活用プロジェクト

帝京大学医学部内科学講座
渡邊 清高



2016年5月21日
岩手県立大船渡病院

気仙がんの在宅療養研修会 2016 岩手 がん患者さんが安心してわが家で過ごすために

がんになる人はどのくらいいるの？

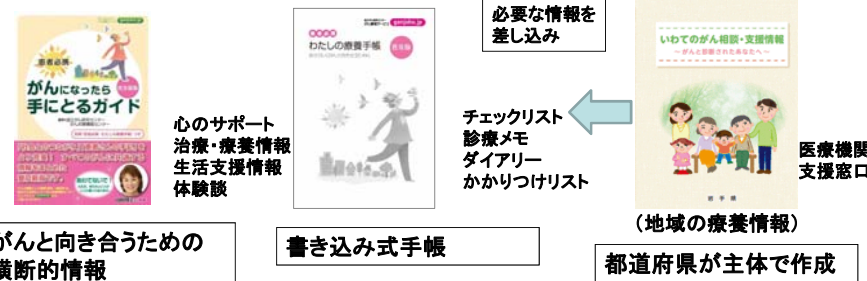


年間36万人の方ががんで亡くなり、
1年間で85万人もの方が新たにがんと診断されています。
主な死因別にみた死亡率の年次推移(人口動態調査 平成25年までの動向)

患者必携とは

がん対策推進基本計画(19年6月策定)より

- がん患者が必要な情報を取りまとめた**患者必携**を作成し、拠点病院等ががん診療を行っている医療機関に提供していく。
- 患者必携**等に含まれる情報をすべてのがん患者及びその家族が入手できるようにすることを目標とする。



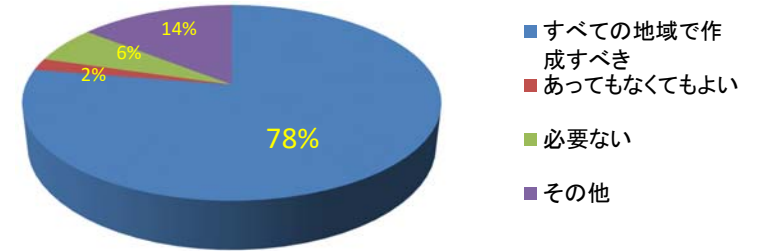
書籍・手帳 患者必携 がんになったら手にとるガイド
学研メディカル秀順社 2013年
インターネット「がん情報サービス」でも無料で閲覧可

情報の「場」をつくる



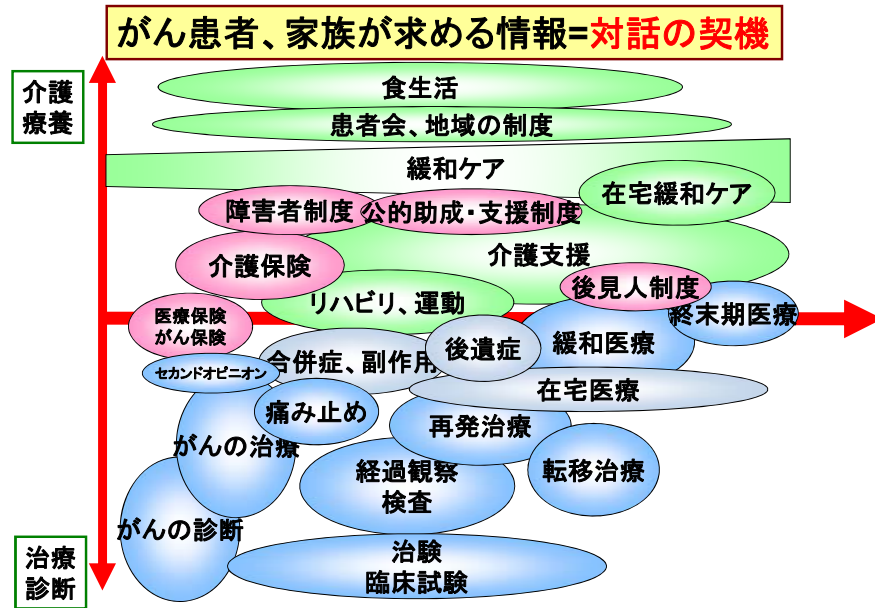
地域の療養情報のニーズと期待

Q.現在4県について「地域の療養情報」冊子を作成しています。今後ほかの地域でも作成すべきと思いますか。



「どうして自分の県はないのですか？」

国立がんセンターがん対策情報センター ウェブアンケート H21年12月
http://ganjoho.ncc.go.jp/public/qa_links/brochure/hikkei_index.html

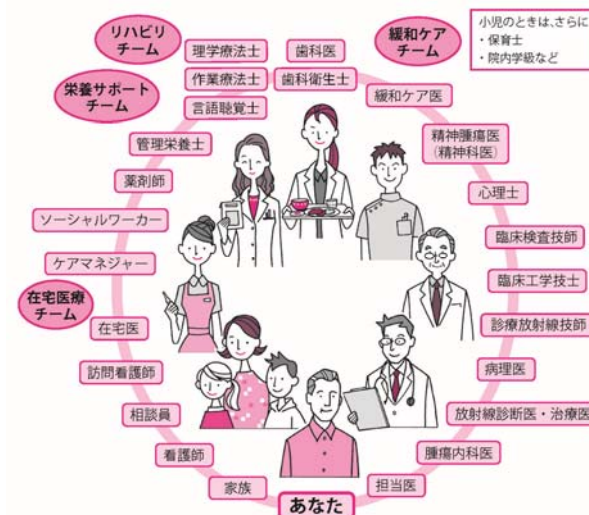


がん患者さん・ご家族向け「地域の療養情報」の作成

34道府県で公開 のべ68冊作成・更新(2016年3月)



顔の見える連携から 患者さん・ご家族・地域とともに歩む医療へ



チーム医療のイメージ

患者必携
 がんになったら手にとるガイド
 国立がん研究センター
 がん対策情報センター

気仙がんの在宅療養研修会 2016 岩手 がん患者さんが安心してわが家で過ごすために
地域におけるがん患者の緩和ケアと在宅療養情報普及と活用プロジェクト

<http://homecare.umin.jp>

がんの在宅療養

地域におけるがん患者の緩和ケア・療養支援情報普及と活用プロジェクト

がんの在宅療養

HOME 在宅療養ガイド 活動・フォーラム

みんなで支える チームで支える

ご家族のための 在宅療養ガイド Home Care Guide

必要などころから

第1章 在宅での療養を始める

2015年10月公開
全文を無料で閲覧可能
(インターネット)
全国の
がん診療連携拠点病院に
見本版を提供

がんの在宅療養

ご家族のための 在宅療養ガイド

がん患者さんご家族のための 在宅療養ガイド

がん患者さんが安心してわが家で過ごすために

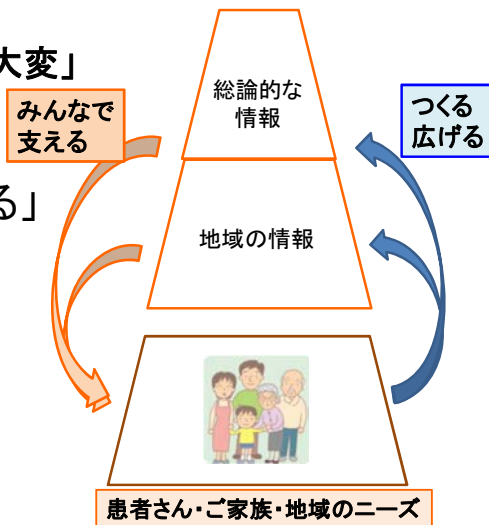
みんなで作る、地域で支える

「ニーズは明らか、でも大変」
だから...

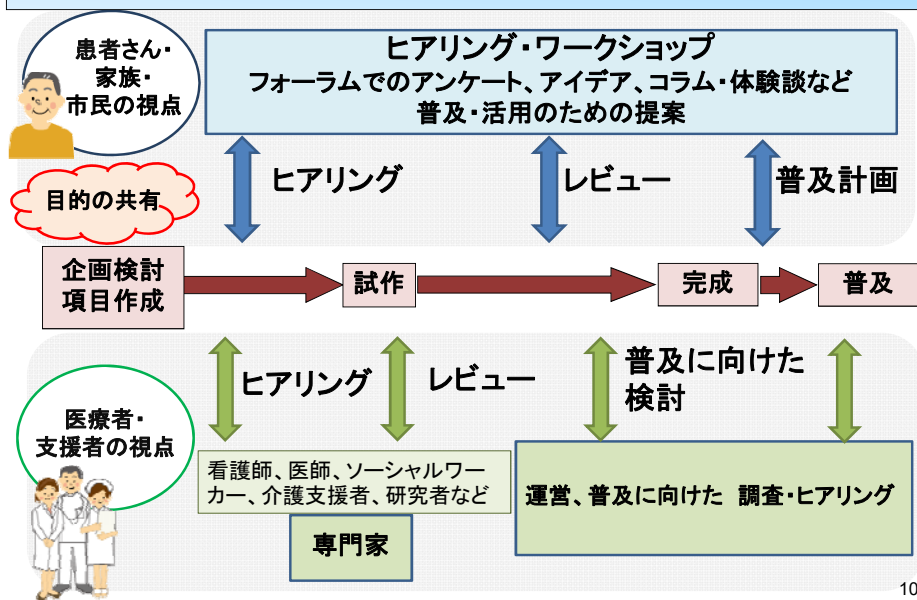
「情報をつくる、支える」

緩和ケア
在宅医療
公的助成・支援
地域の医療機関
地域のリソース
独自の社会支援制度
患者会・ボランティア団体

歴史・風土・文化・教育・言語
気候・風俗・家族観・死生観



療養支援の情報づくり



がん患者さんにご家族をつなぐ在宅療養ガイド

第1章 在宅での療養を始める

本人と家族の心構えと準備
一緒に療養を支えるパートナーを探す
在宅での療養を始めるにあたって

第2章 「最期のとき」に向き合うこと

「最期を考える」ことに向き合う
在宅での療養について考える

第3章 人生の最期をともに生きる

人生の最期をともに過ごす
一心と体の変化に寄り添うには

本人と家族の心のケア

第4章 お別れの時期

看取りのときを迎える
大切なひとを失ったご家族へ



在宅での療養を考えたい、
寄り添いたいとき、
役に立つ情報をまとめた
冊子

在宅での療養を始める

① 本人と家族の心構えと準備

① 家族の心の準備は、相談できる話し相手を見つけることから

在宅での療養にはマニュアルもなければ、決まった型もありません。患者さん本人と家族ごと、それぞれに療養のかたちがあります。はじめは、定められた型がないからこそ、不安も湧き上がってくることもあると思います。あまの形式にとらわれず、患者さんと家族でつくり上げていくという気持ちで進めていきましょう。まず始めてみて、そのあと相談したり、話し合ったりすることで解決や納得に結びつくこともあります。

Sさん(55歳)は都内に住む専業主婦です。ご主人(59歳)は大手企業に長年勤めていましたが、定年を迎え58歳のときに脳腫瘍がんと診断され、闘病生活に入りました。「オンコ夫婦」とはいえない関係でしたが、定年後のんびりとした生活を二人で思い描いていた矢先のことです。また、がんが診断されたときには、親戚が難しい状態だったので、旦那様から病名と今後の見通しを聞いていただくのが大変でした。まさに夫婦で闘病が白になり、会社での引き継ぎもそこそこ入院生活が始まりました。がん用治療に加え、緩和ケアとして痛み止めや抗がん剤の服用が始まりました。外家での治療が何度か繰り返されましたが、がんの広がりや状態から考えると、今後はご主人の痛みや生活上のつらさを取り除くケアを重点的に行うこと、住み慣れた環境で暮らせるように在宅での療養に向けた準備を進めていくのがよいでしょうと担当医から説明を受けました。治療に伴う副作用も落ち着いて、これからの見通しについて考えられるようになってきたこともあり、ご主人との話し合いの結果、今後は在宅での療養のコントロールを受けながら療養していくことを選択しました。妻が担当しており3人暮らし、後男は結婚して独立しています。

「Sさん」と在宅の準備について相談できる、相談員の「Nさん」とのやりとりをみながら、一緒に考えてみましょう。



これまで入院していることが多かったので、通院しながらの在宅での生活は短期間でした。病気が治らないことを受け入れることはつらいのですが、限られた時間を家でゆっくり過ごすことができるのであれば、本人の思いをかなえてあげたいと思います。ただ、最期を隣にしている人に接するのはもちろん、今まで入院していた家族を家でケアするのも初めてです。生活の準備も必要だし、手続きのこともある、そして気持ちの整理もついでないですし、どこから始めたらよいのか、混乱しています。



この半年ほどで、目まぐるしい変化があって、本当につらい、大変な時期を過ごされてきたんですね。これからの在宅での生活では、ご主人とSさんがゆったりと心を落ち着けて過ごせるように、お手伝いします。必要なものをそろえたり部屋を整えたり、介護保険などの制度の手続きをしたりといういろいろなことがありますが、その前に大切なことがあります。それは、あなた一人で身の回りの全てのことを必ずしも背負おうとは思わなくてもよいということです。ほかのご家族やご主人を支えてくれる人たち(支援者)も、時にはご主人とともに、一緒に支え合っていくというくらい気持ちで大丈夫です。



「在宅療養ガイド」制作とプロジェクト創設にいたるまで

渡邊 清高 さん
(帝京大学医学部内科学講座 准教授/腫瘍内科・がん情報)

- ・がん患者さんとご家族を支える情報の大切さ
- ・患者さんとご家族の声から生まれた「地域における緩和ケアと在宅療養情報プロジェクト」
- ・「在宅療養に役立つ情報」を冊子にまとめました

情報と想いを共有する

～兄の最期に寄り添って感じたこと～

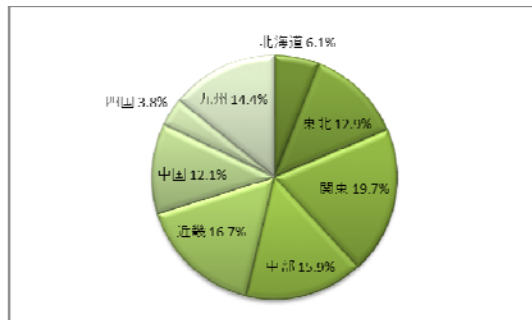
小村 弘一 さん

(兵庫県在住/元 国立がん研究センターがん対策情報センター 患者・市民パネル)

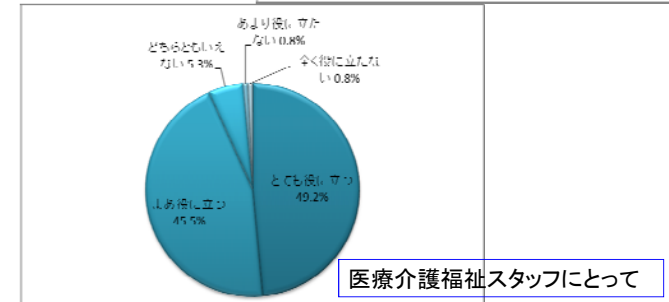
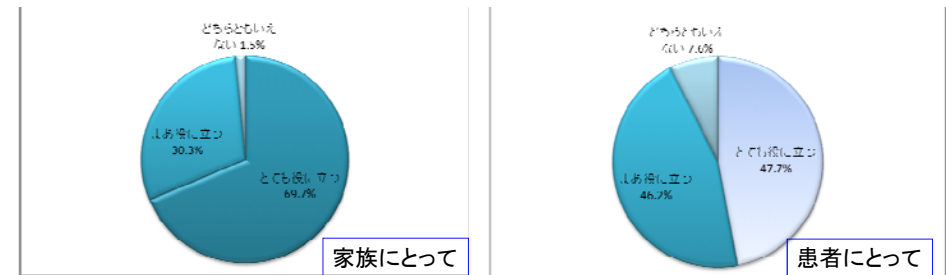
- ・兄の在宅療養をサポートして、感じたこと
- ・情報を共有することが大切 わからないことの不安を取り除く
- ・在宅療養ガイドの作成に携わって
- ・健康な人にもがんの情報を

がん患者の在宅療養支援冊子活用普及に向けたアンケート 2015年10月～12月 アンケート回収数 134件(回収率30.8%)

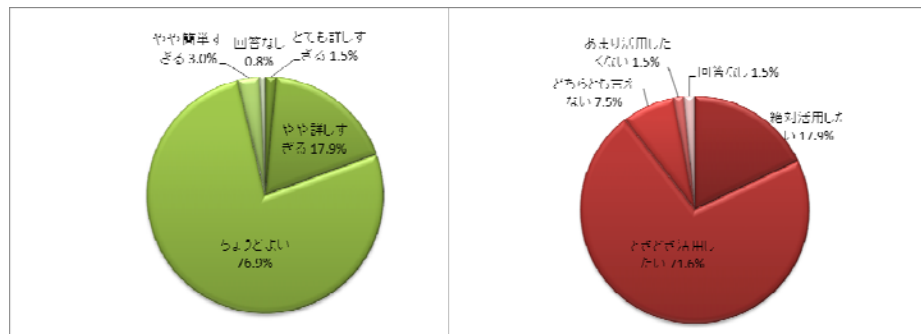
対象 434施設
全国のがん診療連携拠点病院のがん相談支援センター
東京都指定 がん診療連携拠点病院の相談支援センター



役に立ちますか？



内容はちょうどよいですか？ 説明や相談支援のときに活用したいと思いますか？



加えた方がよい情報

- ・現状のままで良い ...9 件
- ・相談窓口や遺族会などの案内 ...5 件
- ・事務的な手続き(銀行、保険など)の詳細 ...4 件
- ・介護保険の具体的な内容 ...4 件
- ・エンディングノートのように書きこめるもの ...4 件
- ・在宅から看取るまでの過程をわかりやすく図式で表わす ...6 件
- ・在宅に必要な介護用具をもっと具体的に紹介する ...3 件
- ・在宅療養が難しくなった場合の入院に関して ...2 件
- ・在宅療養を始めるにあたっての段取り ...2 件
- ・むしろボリュームが多く感じる ...4 件

情報活用(配布・普及)の可能性、課題 配布・活用を促す取り組みの提案

- ・院内の図書館・待合など目につく場所へ設置する ...14 件
- ・がん情報サロンに設置する ...6 件
- ・配布用にもっと簡略化したものがあると良い ...11 件
- ・在宅療養を決める前の段階で活用したい ...3 件
- ・在宅のイメージが持てない方に有効的だと思う ...3 件
- ・一般の方へも広報してほしい ...2 件
- ・市民講座、研修会、学会等で紹介していく ...6 件
- ・在宅を検討中の患者さん、ご家族に直接渡したい ...7 件
- ・文字のサイズをもう少し大きくした方が良い ...5 件

情報が届き、在宅療養の場で効果的に活用されるためのご提案・ご意見

- ・院内の相談窓口や図書室、待合室などへ設置 ...11 件
- ・全国の図書館に設置 ...4 件
- ・HP やテレビ、新聞で広報 ...4 件
- ・公的な場所(図書館・役所・薬局など)へ設置 ...3 件
- ・がん拠点病院のみに置くのではなく、地域生活支援センター、在宅医や在宅介護支援事務所に配布 ...9 件
- ・本屋で誰でも入手できるようにする ...6 件
- ・冊子をもとにした勉強会を開いたり、がん患者のご家族から意見をいただく ...2 件
- ・まずは医療関係者が在宅療養に向けて理解を深め、紹介できるようにする ...4 件
- ・導入のためのパンフレット、簡略化 ...17 件

気仙がんの在宅療養研修会 2016

の提案

がんを患った方とそのご家族が、その人らしい生活を維持しながら、自宅や施設などの身近な場所で過ごすための仕組みをつくりあげるとき、医療・介護・看護・福祉の幅広い職種で、患者さんやご家族の思いに寄り添いながら議論することが大切です。

岩手県気仙地域の在宅療養を支える専門職が一堂に会し、「がん患者さんが希望する場所で最期まで過ごすことのできる仕組みづくり」の実現に向けて、療養する患者さんとご家族を支える情報の共有と連携の必要性について話し合います。